

大型クラゲの遊泳行動

漁業生産工学部

研究の背景・目的

1. 日本周辺海域に大量出現する大型クラゲ(エチゼンクラゲ)による漁業被害を防ぐためには、大型クラゲの遊泳深度や行動特性の把握が不可欠

研究成果

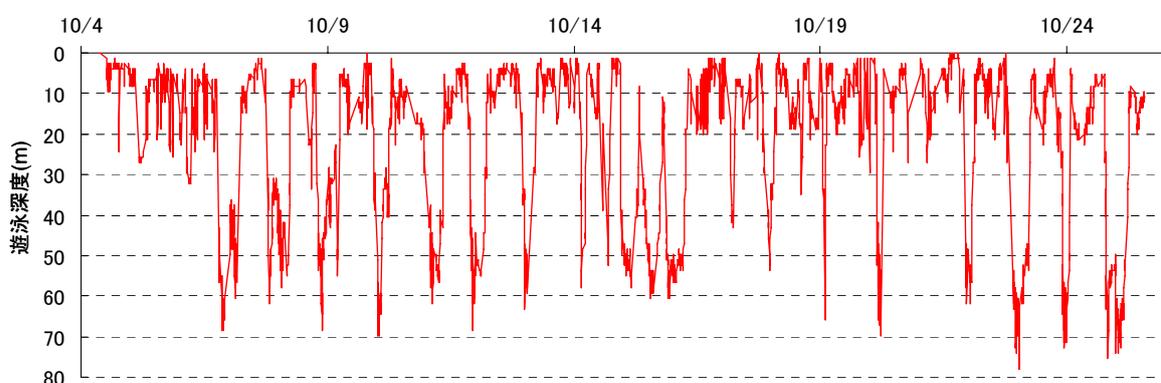
1. 大型クラゲ 4 個体に電子標識(ポップアップアーカイバルタグ)を装着して遊泳行動を調査
2. 遊泳深度は最大 50~78m、平均 21~28mで、鉛直移動を繰り返していた

波及効果

1. 遊泳深度の把握により、海流の速度から詳細な来遊予測ができる
2. 効果的な洋上駆除や、被害を防除するための漁具や方法の開発に役立つ



大型クラゲへの電子標識の装着



記録された遊泳深度の例

(漁法研究室・本多直人)